

第3回 国際タウリン研究会における研究発表

政策・メディア研究科 修士課程1年 花里 奈瑠美

1. 概要

名称：第3回 国際タウリン研究会 in つくば

期間：2017年2月11日～12日

形式：口頭発表

2. 内容・成果

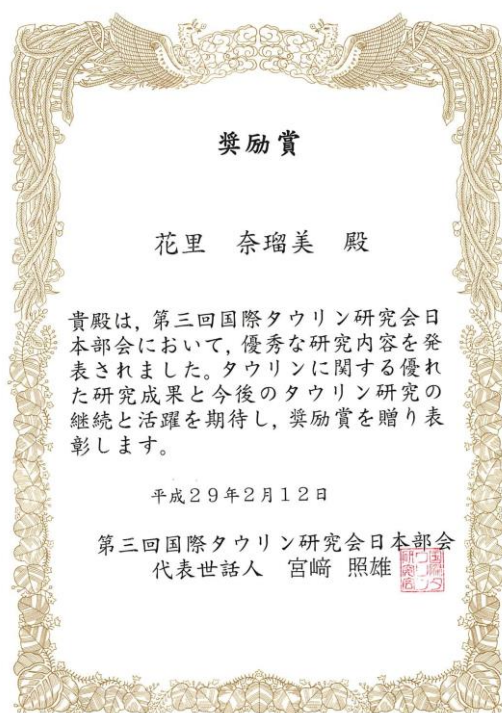
超高齢化社会を迎えた日本において、高齢者の健康維持や健康長寿をめざしたタウリンの活用は、今後の大きな研究の柱の1つと考えられます。日本においてタウリンは、医療用医薬品や栄養ドリンクの成分として古くから使用されていますが、近年、魚の養殖におけるタウリンの重要性も解明されてきました。日本は世界の中でもタウリン研究が最も盛んな国であり、医学、薬学、体力科学、農学、水産学、栄養学、理学、工学などの領域で、様々な基礎および応用研究を精力的に進められている。この度の学会は、領域を問わず、タウリンの

研究を行っている様々な分野の研究者が集い、情報を共有する会である。そのため、様々な分野におけるタウリンの効果やメカニズムについて新たな知見を得ることができた。

私は、「タウリン投与による代謝変動解析」というテーマで発表を行った。発表後の質疑応答において、様々なご指摘やアドバイスをいただき、今後の研究へ向けて新たな指針が生まれた。

<成果>

奨励賞を受賞することができた。これを励みに、今後も研究に邁進していきたい。

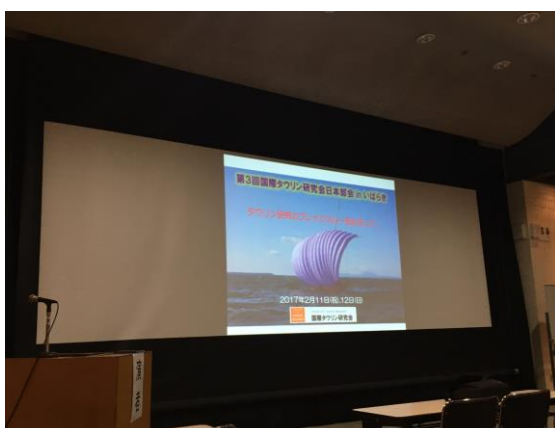


3. 展望

タウリン研究を行っている先生や学生の方とのディスカッションにより、自身の研究の今後の進め方に関してヒントを得ることができた。今後、共同で研究を行うなど今回の出会いを繋げていきたいと考える。

4. 謝辞

本活動において多大なるご支援を頂いた湘南藤沢学会に感謝申し上げます。



上：集合写真

左：学会会場風景 右：奨励賞受賞式